

1. 件名：「日立造船（株）特定兼用キャスクの型式証明申請（Hitz-B69 型）に関するヒアリング【13】」

2. 日時：令和6年1月18日 13時30分～15時30分

3. 場所：原子力規制庁 9階B会議室

4. 出席者（※・・TV会議システムによる出席）

原子力規制庁：

（新基準適合性審査チーム）

寺野管理官補佐、松野上席安全審査官、櫻井安全審査官

（核燃料施設審査部門）

甫出安全審査官※

（システム安全研究部門）

小澤システム安全政策研究官※、福田主任技術研究調査官※、

後神主任技術研究調査官

日立造船株式会社：

脱炭素化事業部 プロセス機器ビジネスユニット 原子力機器事業推進室

室長 他8名

5. 自動文字起こし結果

別紙のとおり

※音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

6. その他

提出資料：

資料1-1 Hitz-B69 型 ヒアリングコメント管理票

資料1-2 ヒアリングコメント回答

資料1-3 補足説明資料 1-2 バスケット材料（HZ-SG295HAR）と設計方針の関係について

資料1-4 補足説明資料 16-3 16 条 燃料体等の取扱施設及び貯蔵施設 遮蔽機能に関する説明資料

以上

時間	自動文字起こし結果
0:00:02	規制庁のマツノです。ただいまより日立造船の方に照明のヒアリングを始めたいと思います。本日は、前回の審査会合のコメント回答と、
0:00:15	あとヒアリングで、指摘事項に、コメント、確認事項に対して未回答の部分が幾つかありますので、その回答を資料を用意していただきましたので、まずは資料に沿って説明をお願いいたします。
0:00:37	はい。日立造船の樋口でございます。よろしくお願いいたします。それでは、まず前回の審査会合においてコメントいただきました内容をまず確認させていただきたいと思います。
0:00:49	大きなところで五つございまして、よって、6項目ございまして、
0:00:56	まず一つがですね、バスケット材料の名称なんですけれども、現在我々の方はSG25という材料ということで申し上げておりましたが、
0:01:07	これに特別な名称をつけるようにというご指摘をいただきまして検討しております。
0:01:14	それとあとこのSG29号の特別な名称を定めることに関連してですね、これに関連する図書ですね、こちらの表記も適正化することと、
0:01:25	いうこと、いうご指摘をいただいております。
0:01:28	さらに、大瀬、オーステナイト結晶粒度と、参加要請アルミニウムの関係を、こちらについて説明することと、
0:01:37	いうことと、あと、このSG29号に関連してですね、ひずみ事項に関わる追加試験を実施する予定ですが、この試験の内容をですね、補足説明資料とに記載することと、
0:01:52	いうふうにご指摘をいただいております。さらに、
0:01:55	クラウン構造のタブチへの影響を、後段審査、型式指定審査の方ですね、こちらの方で説明することというご指摘と、
0:02:07	あと遮へい遮へい表面の線量率の値ですね、こちらについてのコメントをいただいております。
0:02:15	ではこの内容に沿って、どのように対応していくかということをご説明させていただきたいと思います。
0:02:21	まず、藤SEに9号の名称の件ですが、こちらに関しましては、補足説明資料1-2、お手元の資料、資料1-2ですね。
0:02:31	こちらの補足説明資料1-2の方で、バスケット材料の名称をHzSG295hrというふうに改めまして、
0:02:43	名称を定めました。これに関連して補足説明資料の方も修正をかけております。

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:02:49	で、さらに、
0:02:52	各図書の表示も適正化することということで、補足説明資料と関連する図書に関しては、すべてそれに改めようというふうに進めております。
0:03:03	次に、大きな決勝粒度等、参加予定あるニュースの関係についてですが、こちらにつきましては、資料 1-2 の中の 1 目次のところをご覧くださいますと、
0:03:15	別紙 4 というものを追加しております。これについてはちょっと後程ご説明させていただきます。
0:03:22	さらに、SG29 号の泉事項に関連する追加試験の件に関しましては、別紙 5、補足説明資料 1-2 の別紙 5 として、
0:03:33	説明文をつけましたので、そちらでご確認いただきたいと思います。まず、では別紙 4 の方の説明を
0:03:43	まずその前にですね、
0:03:46	名称をSG295、SG295、1 セットSG2QHRHRに改めることに対しまして、
0:03:57	これまで、
0:04:00	藤辻井さん 116 吳のSG2 級を使用するというような記載の部分が、何ヶ所かございましたけれども、それを、基本的には、
0:04:12	技術G3116 に準拠したSG9 号ということにしております。SGHzSG2Q 5 ということにしており、hrとしております。
0:04:24	で、基本的に材料規定に関しましては、JISG3116 と 3118、こちらを
0:04:33	両方を考慮して、規定している。
0:04:37	はい。
0:04:39	いう。
0:04:40	形にさせていただきます。
0:04:47	今回補足説明資料の本文の方に関しましては、そのような修正をしたのと、あと、補足説明資料 1-2 に関しまして、14 ページ目なんですけれども、
0:04:58	これもちょっと関連は薄いんですが、
0:05:01	後程説明させていただきます。ソーシャル結晶粒度と 3 ヶ月アルミニウム合金の関係についてにちょっと関連はするんですが、
0:05:10	材料、14 ページの製造管理規定の方針のところ、
0:05:17	オーステナイト結晶粒度の久オーステナイト結晶粒度の記載を、当室フジイ 3118 に記載しております。文章に、
0:05:28	できるだけ合わせた形に変更しております。

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:05:36	それ以外は、名称を考え方をちょっと変えたところを、補正修正したという形になっております。詳細の説明をちょっと割愛させていただきます。ではまず、
0:05:47	別紙、A4について、弊社のタケウチの方説明させていただきます。
0:05:54	はい。説明者交代いたします。日立造船の武内でございます。別紙4の説明をさせていただきます。こちらはオーステナイト結晶粒度と、
0:06:05	参加要請アルミニウムの関係について説明している資料になります。
0:06:11	あと、別紙1の4ページ、1ポツですね、こちらには概要を示しております、特に今回は、鋼の機械的性質及ぼす結晶粒度の影響ですとか、
0:06:23	参加要請アルミニウムの量と、オーステナイト結晶粒度の関係について文献により、調査した結果を示しているものになります。
0:06:48	はい、承知しました。
0:07:11	はい、説明を再開いたします。
0:07:14	別紙4の1ページの2ポツでは、鋼の機械的性質に及ぼす結晶粒度の関係をまとめています。
0:07:23	ページを1枚めくっていただいて、別紙の4-2ページをご覧ください。
0:07:29	こちら図面が二つございまして、上の図面は、低炭素コウノ結晶粒径と降伏強さの関係を示しています。
0:07:39	大して下側の図面では、結晶粒径と靱性の関係を示しております、これらの図面に示したように、鋼においては、
0:07:50	結晶量が細かくなると、強度や靱性の向上することが知られています。ここで特にですね、血漿流の大きさの尺度には、結晶流動Aというものがありまして、
0:08:03	テライと結晶粒度やオーステナイト結晶粒度がございます。
0:08:07	鋼の製造において、高温から冷却される際に、オーステナイトからフェライトやパーライトが生じます。
0:08:15	この組織変化は、オーステナイトの結晶粒界等を核として生じますので、元のオーステナイトの流が小さいと、上におけるフェライトやパーライトも小さくなって、
0:08:28	スライドが大きければ、その逆になると、いうことがあります。
0:08:33	このようなことから、ステライトの結晶粒度というのは、鋼の特性を考える上で重要な指標となるので、実のG3118において、
0:08:44	SG分410においても、機械的性質を確保する観点から、そのオーステナイトの結晶流動を5以上にしていると、いうふうに考えられます。

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:08:53	従って、1ZSD295hrの製造管理規定においても、ステライト結晶粒度を5以上としているということになります。
0:09:04	ページを1枚めくっていただきまして、別紙の4-3ページ目をご覧ください。
0:09:11	A3の内容では、鋼の製造プロセスにおけるアルミニウム添加の効果を説明しています。
0:09:20	あと、図の別4-3、こちらには鋼の製造フローを示しております、
0:09:27	鋼は、製造工程においてですね、溶けた鉄の中に酸素吹き込むことによって、不純物元素を飛ばすような工程が入っております。
0:09:39	で、この鋼に含まれる酸素ですね、こちらは材料に気泡を生じることで、欠陥の原因になってしまうということがあります。
0:09:49	そこで、鉄よりも酸素と反応しやすいアルミニウム等を鋼に加えることで、ダッサン処理を行うというような工程があります。
0:09:59	このように、合算を主目的として添加されるアルミニウムなんですけれども、製造される鋼材、こちらの血漿流の成長を抑制する効果もあると。
0:10:10	ということが知られています。
0:10:12	メカニズムとしては、鋼にアルミニウムが添加されたときに、窒素と反応することで、チックアルミニウムを生成します。
0:10:21	このチックアルミニウムが鋼の結晶粒界の移動を阻止して、結晶流成長を抑制するということがあります。
0:10:29	以上のように、鋼の製造プロセスにおけるアルミニウムの添加というのは、酸素を取り除くダッサンと、血漿流微細化の効果があると、いうことを説明しております。
0:10:42	ページを1枚めくっていただきまして、別紙の4の4ページ目をご覧ください。
0:10:48	こちらでは、鋼のオーステナイト結晶粒度と参加要請アルミニウムの関係について、図に持ち基づいて定量的な説明を加えているものになります。
0:10:59	この下側ですね、図別4-4、こちらでは、低炭素コウや、クロムモリブデンコウ、さらにはニッケルクロムモリブデンコウに含まれる。横軸に参加要請アルミニウムの量と、
0:11:15	縦軸にオーステナイト結晶粒度の関係を示しております。

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:11:19	この図からですね、三つの材料、違う材料なんですけれども、鋼の結晶粒度と、参加要請アルミニウムの量には、明瞭な関係があるということが認められます。
0:11:32	また、図からですね、アノ鋼の参加要請アルミニウム量が 0.01% 以上の場合、オーステナイト結晶粒度は、5 以上を満足していると、ということがわかります。
0:11:48	以上からですね、HzSG295、1ARにおいて、参加要請アルミニウムの分析値が 0.015% 以上であれば、
0:11:59	大津内と結晶粒度はアノ 5 以上を満足できると、いうふうに考えられます。
0:12:04	別紙 4 の説明としては以上となります。
0:12:08	はい、日立造船の樋口でございますが、引き続き別紙 5 の説明にも入ってよろしいですか。
0:12:17	では引き続き、別紙 5 の方の説明を弊社のタテウチの方から説明させていただきます。
0:12:24	はい。日立造船の竹内でございます。引き続き、別紙の 5 について説明をさせていただきます。
0:12:32	ページを 1 枚めくっていただきまして、別紙の 5-1 ページ目をご覧ください。
0:12:38	別紙の 5 ではですね、バスケット材料の歪事項対策を目的とした応力除去照度んの有効性確認試験について、示しております。
0:12:49	1 ポツでは概要を示しておりまして、バスケット材料は製造時の曲げ加工によってひずみ事故を発現して、
0:13:00	脆化することが懸念されます。
0:13:03	この対策として、曲げ確保した後に、照度んすることが有効というふうに考えられますので、この別紙の 5 では、コンパートメントに施す照度に関して、
0:13:14	ひずみ事項対策としての有効性ですとか、また母材強度への影響を確認するための試験の内容を説明しています。
0:13:24	2 ポツの方では、コンパートメントの冷間曲げ加工部を模擬するための、吉住不要方法をまとめています。
0:13:33	まず、2-1、こちらの供試材に関しましては、強度を保守的に評価するため、これまで作成した栈橋本の後半のうちですね、
0:13:43	最も強度の低い標本人を供試材として選んでおります。
0:13:49	また、資金は、

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:13:54	大丈夫構造です。
0:14:07	はい。聞こえてす。
0:16:21	すみません、再、説明を再開いたします。
0:16:25	試験の厚さについてですね、こちらコンパートメントの厚さは 4.5mm ですけれども、試験の厚さとしてはJISで規定された最大の 6mm厚としております。
0:16:37	これは、板の厚い方がですね、ネック圧エンジンに冷めにくいために、結晶量が成長する時間が長くなって、結果的に結晶量が大きくなり、強度が低下することが考えられますので、
0:16:50	影響度を保守的に評価するために、厚板材を採用してございます。
0:16:57	次に、同じページの下側下から二つ目ですね、2-2、試験の内訳について説明をいたします。
0:17:06	ひずみ事故対策としての照度の有効性については、Aの受け入れ材、そして、Bのコンパートメントの冷間曲げ加工を模擬した。
0:17:16	よき泉を与えた後に、事故した材料、
0:17:19	さらに、椎野吉住を与えた後、勝井、さらに次こうした材料を用いて確認をいたします。
0:17:27	一方、勝井による母材の強度低下については、Dの敬礼材に照度を施した材料、こちらを用いて調査を行います。
0:17:38	同じページの一番下側 2-3 では、試験編の吉住芙蓉方法をまとめています。
0:17:45	試験編に付与をします。ひずみの量としましては、コンパートメントの冷間曲げ加工により付与される表面歪、こちらを計算により求め決定いたします。
0:17:58	ページを 3 枚めくっていただきまして、別紙の 5-4 ページ目ですね、下側の図別 5-1 ですね、こちらをご覧ください。
0:18:08	この図は、コンパートメントにおける曲げR分の模式図を示しています。
0:18:14	曲げ変形を受ける板におきまして、板厚中央部の長さ、板外側の長さの比を計算により求めることで、曲げ外側の表面歪量、こちらを
0:18:28	算出いたしました。
0:18:30	なお、曲げ、内側の表面歪の量も、外側と同じでありまして、外側が引っ張りであるのに対して、内側が圧縮である。この違いのみです。
0:18:41	従って試験編に付与する予ひずみの量としては、ここで計算した値を用いることにいたしました。
0:18:48	ページをめくっていただきまして、別紙の 5-5 ページ目をご覧ください。

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:18:55	図別、5-2、こちらには試験編の作成方法を示しております。
0:19:01	大型の引張試験編を供試材から切り出しまして、こちらに予ひずみを付与し、コンパートメントの冷間曲げ加工によるひずみを模擬いたします。
0:19:12	ここですね、この模擬試験では、コンパートメントの冷間曲げ加工部における内側の圧縮ひずみ、これが考慮できていないという懸念があります。
0:19:23	しかしながらですね、次の図別 5-3 に示しますように、冷間圧延、すなわち、圧縮ひずみを与えた鋼では 600 度以上の所、焼きなましで伸びの回復が起こるといった報告がありますので、
0:19:37	圧縮ひずみに対する勝井の有効性ということも示されております。
0:19:43	さらに、金属が引っ張り、圧縮、いずれの応力を受けた場合でも、塑性変形は原子の滑り、つまり、転移の増殖によって生じます。
0:19:54	すなわち、引張圧縮いずれにおいても、塑性変形のひずみが同じであれば、材料に蓄積される、転移の量は等しいと言えます。
0:20:04	泉事項のメカニズムは、冷間加工によって、増殖された転移等の内部欠陥に侵入型雇用元素である丹ソヤ、窒素が集合し、
0:20:14	その動きを拘束する結果、降下脆化するものと考えられています。
0:20:20	従って、コンパートメントの冷間曲げ加工によるひずみは、試験変に引張ひずみを与えることにより、模擬できると考えられます。
0:20:30	ここですね、別紙の 5-2 ページに戻ります。
0:20:35	3 ポツ、熱処理の方法について説明をいたします。
0:20:41	バスケット材料のひずみ事項を模擬するため、試験編には、予ひずみを与えた後に 150 度、1 時間の時効処理を施します。
0:20:51	鋼の歪事項については、冷間加工後に、100 度からおよそ 200 度到时効処理すると、30 分程度の短時間で効果、脆化が完了するという報告があります。
0:21:02	従って、250 度 1 時間の時効処理によって、キャスクの長期供用を考慮する形で、ひずみ時効の影響を調査できると考えています。
0:21:13	なお、鋼板のひずみ事項を検討した過去の報告においても、同じ時効処理条件が採用されておりまして、この条件は妥当と考えられます。
0:21:24	またですね、ひずみ時効対策を目的とした賞論の条件、こちらは 625 度 × 1 時間をターゲットとします。
0:21:34	泉事項で、脆化した鋼は 600 度前後の照度んで、ある程度靱性が回復するということが報告をされています。

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:21:42	さらに、当社の予備実験でもですね、HzSG295、1Rに対し、温度を 650 度以下、時間を 2 時間以下の照度を施した場合、
0:21:53	敬礼材と比較して、硬さや金属組織が変化しないということを確認しています。
0:22:00	従って 625 度×1 時間の小損は、バスケット材料の曲げ、RVにおける歪事項対策として、有効と考えられます。
0:22:11	ページを 1 枚めくっていただきまして、別紙の 5-3 ページ目をご覧ください。
0:22:18	4 ポツでは、材料試験の内容をまとめています。
0:22:23	試験によって、定期セットSG295、1Rにおける歪事項の影響を調査するとともに、照度の効果を確認いたします。
0:22:33	さらに、勝井に伴うですね、母材共同への影響というものも、調査をいたします。
0:22:40	試験はとしては 4 項目ございまして、片括弧A常温及び高温の引張試験、
0:22:47	片括弧B、リッカー硬さ試験、
0:22:50	片括弧Cシャルピー衝撃試験、
0:22:53	さらにADの金属組織観察です。
0:22:57	引張試験については、受け入れ材に対して、これまで設計許容強度の設定等に際に行った試験と同じ形状の試験を用いまして、
0:23:08	各種試験編の降伏強さ、引張強さの日を測定いたします。
0:23:14	引張試験の温度は、日本機械学会規格、こちらの発電用原子力設備規格の材料規格に付随します新規材料採用ガイドラインを参考に決定をしております。
0:23:28	すなわち、キャスクにおける高温強度を保守的に模擬するために、バスケットの最高使用温度よりも、50 度高い 350 度の条件とします。
0:23:39	さらに、常温とその 350 度の間の温度として、200 度の試験を加えることといたしました。
0:23:47	次に、Ricker波硬さ試験については、こちら、別紙の 2 で実施したものと同一方法によって行います。
0:23:56	常温で足の押し込み荷重を 5kg中、保持時間を 15 秒の条件で、各種試験編のABかつ硬さを測定いたします。
0:24:07	シャルピー衝撃試験では、バスケット材料の最低使用温度であるA-22.4 度考慮しまして、試験温度をマイナス 23 度として評価をいたします。

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:24:20	なおですね、JISにおけるシャルピー衝撃試験の標準試験、こちらは長さが 55mm で、一辺が 10mm の正方形断面を持つ形状です。
0:24:33	しかし、供試材の板厚が 6mm で当たりまして、この厚さ 10mm の標準試験は、採取ができません。
0:24:41	そこで、5mm 厚さのサブサイズ試験編を用いて、吸収エネルギー及び延性破面率の測定を行います。
0:24:50	金属組織観察では、各種試験編の組織を観察することで、機械的性質との関係を調査いたします。
0:24:59	試験編の断面を研磨、そして、薬液で化学エッチングしまして、光学顕微鏡、或いは走査型顕微鏡で、金属組織の観察を行います。
0:25:11	別紙の 5 の説明としては以上となります。
0:25:18	同姓のヒグチでございます。SG29 号に関するバスケット材料に関する説明は以上となります。
0:25:26	このままコンパートメントと遮へいの方はいかがいたしましょうか。いや、ここ、規制庁マツノです。まずはここでちょっと 1 点、区切って質疑応答のほうに移らせていただきます。
0:25:41	今日立造船から、このバスケット材料に使用する、またそこについて、前回の審査会合のコメント回答がありましたけども、
0:25:54	まず最初に技術的な確認も含めて、何かこちらから、
0:26:00	わかりますでしょうか。
0:26:03	小澤さん、聞こえますか。
0:26:08	オダさんからいくつか、
0:26:10	確認があればお願いいたします。
0:26:15	ありがとうございます。
0:26:20	Ⅳ。
0:26:29	かかるかも。
0:26:31	えっと、
0:26:32	今回、
0:26:35	法、
0:26:36	J-R
0:26:37	という名称に
0:26:41	いるんですけど、ちゃんと
0:26:46	た上で、の定義ってどこかでされてるかなっていうところは、
0:26:52	それで、3116 とか 318 疇津にですね。
0:26:58	準拠してるとか、いうこと書かれてるんですけど。

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:27:03	準拠しているんだったら、それは、この材料は、
0:27:11	応力衝動処理する前の材料のことなのかなと。
0:27:16	でも実際に使うのは、
0:27:18	と。
0:27:19	括弧書きした材料なので
0:27:26	材料の名前を、どういう材料に
0:27:30	適用してるのかというのを、定義を明確にしていきたい。
0:27:34	というのが、
0:27:36	2点。
0:27:39	えっと、これ。
0:27:40	続けて、
0:27:42	話しています。
0:27:43	してって、
0:27:45	はい、オクニシタニありました。
0:27:47	はい。
0:27:49	1点は以上です。
0:27:52	日立造船の樋口でございますコメントありがとうございました。
0:27:56	まず定義についてなんです、
0:27:59	こちらに関しましては、基本的には、HzSG29号は、ユフ小損する前からHzSG29号という名称、それは、
0:28:12	材料規定に基づいて定まるものというふうに認識しております。で、SG A応力除去賞損というのは、HzSG295hrに対する、
0:28:28	加工の一つと、熱加工の一つというふうにとらえておりますので、そのような形で定義づけさせていただけたらなというふうに考えております。
0:28:46	及び取れるようにですね、どこかに明示し、しっかり明示していただければよろしいかと思うんですが、いかがでしょうか。ちょっと広報をしてわかりにくいという。
0:28:58	最終的です。
0:29:00	はい。日立造船の樋口でございます。それでして、それでは補足説明資料1-2の方で、その説明を追加するような形、させていただきたいと思えます。
0:29:18	定義のところは、
0:29:20	重要な点だと。
0:29:35	はい検討いたします。ただですね、在申請書の中では、もう
0:29:46	この1ZSG295を定めた経緯までは確か入ってなかったと。

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:29:58	なので、ちょっと検討の内容を見てみて、注記書きで書けるかどうかというところですね、ちょっと検討させていただきたいと思います。
0:30:09	ありがとうございました。
0:31:27	続けてお願いします。
0:31:29	はい。
0:31:31	では、2点目なんですけど、
0:31:35	これ、
0:31:38	別紙、補足説明資料1-2のページの4ページ。
0:31:44	で、セキ給与挙動基本方針のところ、
0:31:48	材料試験で取得した。
0:31:51	云々ってあるんですけどこれは、SG295のコウフテンとか引っ張り調査を、
0:31:58	比較してせ、
0:32:03	SG29号の強度
0:32:08	を考慮して設計共同として保守的に設定する。
0:32:13	これあるんですけど、実際に主使用するのは、HzのSG295hr。
0:32:21	であって、これSG295。
0:32:27	より今日とか、
0:32:28	評価する可能性はあると、当初考えてたんですが、
0:32:33	結局、応力ショートする前のものだから、この段階では、
0:32:41	SG295とAHzSG295hr剤っていうのは、この段階ではイコールと、こういう理解。
0:33:02	よろしいでしょうか。はい。日立造船の樋口でございます。厳密に言うとイコールではないんですけども、応力除去小損することによって、母材の強度が規格値より低下することがあるかという点に関しましては、
0:33:19	低下することはないというふうに考えております。従いましてSG9号の規格値をツジ295の試験結果に基づくものを、
0:33:32	用いても、共同上問題がないというふうに考えております。
0:33:38	オザワですそうすると、
0:33:41	とそ今のように考えられるのはおそらく別紙2で確認してるからという。
0:33:49	ことですかね。
0:33:52	日立造船の樋口でございます。別紙2で硬さを確認しております、硬さがそこまで落ちることはない。今考えている応力除去照度の条件では、

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:34:06	そこまで落ちることがないというふうに考えておりますので、別紙に基づいた説明になるかと考えております。
0:34:15	はい。そうであれば、そのような説明をさらっとどこかに入れていただけると、ここです、SG2 級母材の評価を、
0:34:26	設計強度に反映するというので、
0:34:30	この考え方が明確になると。
0:34:35	谷内造船の樋口でございます。承知いたしました 4 ページのところですね、応力状況、
0:34:42	状況、応力上昇どう行ってもですね規定値より下がることはないというふうな文言をちょっと検討させていただいて、別紙C2 の方、あび別紙 4、違う。
0:34:57	別紙 2 の方につなげるような形にさせていただきたいと思います。
0:35:03	はい。ここはお渡しします。説明性を担当していただければいいと思います。よろしくお願いします。はい、承知いたしました。
0:35:15	松田さん続けた上で、はい。はい。
0:35:21	あとはですね、別紙。
0:35:26	4-1 ページ。
0:35:32	よろしいですかね。
0:35:35	H _z SG29 号hrの製造管理規定においては、
0:35:43	云々と書かれていて、結晶流動し、試験は可溶性あるメニューの分析値が、
0:35:51	0.015%以上の場合は省略しても良いこととするとしてるんですけど、ここ
0:35:57	土肥。
0:36:00	そしてそのあとしかしながらとか、
0:36:03	なんて書かれてるんですけど、何かこう読んでみると、
0:36:07	何言いたいのかちょっと意味がわかりにくいなど。
0:36:11	思いますそれで、
0:36:13	これさらっと言いたいことは、血漿量等に係る製造管理規定の技術的妥当性、妥当性について説明するっていうことでしょうか、そのことを端的に書いていただければいいと思うんですが、このようにちょっと、
0:36:30	難しい文章にした理由とか何かあれば教えていただきたい。
0:36:37	はい。コメントありがとうございます。日立造船の武内でございます。今小澤様からご指摘をいただいた部分に関しましては、ここ、

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:36:48	フライト流動 5 以上と指定することとしているんですけども、参加要請アルミニウムの
0:36:57	値が 0.015%以上であれば、このオーステナイト粒度の 5 以上を満足することが文献によりわかっておりますので、
0:37:08	スライド粒度を異常とする、或いはアルミの分析値が 0.0515%以上とすると、そのどちらかを満たせば材料としてOKですよという、説明をしたいためにちょっとこの記載になっているんですけども、
0:37:24	オザワ様おっしゃられますようにちょっと内容が大分ちょっとわかりづらいということで、コメントをいただいております。この技術的妥当性について説明するというようなちょっと文言に変更させていただきたいと思っております。
0:37:46	すいません。ありがとうございます。
0:37:48	久野さんちょっと。
0:37:50	終わり。すいません。
0:37:53	今の説明で衛藤。
0:37:57	結晶量 55 以上、
0:38:00	可溶性アルミニウム 0.015%以上を
0:38:06	どちらを使う予定っていうことをさ、
0:38:09	ハタボイスアルミニウム類でイシコカワセ。
0:38:13	ということですね。
0:38:16	日立造船の樋口でございます。
0:38:21	実際の製造過程でいきますと、どうしてもですね、製造後すぐ確認できるっていうのは、産業的なプロセスからいうと、
0:38:33	参加要請アルミニウムの量になりまして、参加要請アルミニウムが 0.15%位、
0:38:41	0.15%以上、0.015%以上あればですね、問題ないというふうな確認になりますので、実際の製造ではそちらに多分なるかと思えます。ただし、
0:38:55	もし 0.015%以上、もしある製品を使うとするならば、当然検証粒度を 5 以下になることを確認するということになると思えます。
0:39:08	わかりました。ありがとうございます。
0:39:19	うん片方で、
0:39:25	傾聴、
0:39:28	技術的な要件からすると、結晶粒度 5 以上満足するのが必要なんですけど、参加要請アルミニウムが 0.015%以上あれば、

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:39:39	その結晶粒度 5 以上あることが明確なので、結晶流動試験をする必要がなくなるってということになります。
0:39:47	なので、見た目上はどちらかになる。
0:39:54	条件として、形状テラノそれ条件としてどちらもかく、
0:39:57	JISに従ってどちらも書こうかと思えます。
0:40:04	これはちょっと後々出てくるかもしれないんですけど、
0:40:08	この書き方自体は、すでにアメリカの
0:40:14	架空をそのまま取り込んだときに、発生、発生したものですので、
0:40:22	あまりそこから外れない方がいいのかなというふうには考えて、
0:40:33	はい。このアノオダ疇津、この書きぶり残すほうがいいと思いますよ。うん。わかります。参加要請アルミニウム量が 0.015%以上というのと、
0:40:44	結晶流動の関係を暗に示しているものなので、ここは規格と同じような書きぶりでもいいと思います。
0:40:54	ありがとうございます。
0:40:58	続きまして、はい。はい。
0:41:02	まず、そうです。まず最初に言わないといけなかった。
0:41:06	どこの
0:41:07	別紙 4 のですね参考文献、浴場見つけていただいたというところで説明性のある資料になってると思います。それで、その上で、もう 1 点だけソフトコメントしたいんですが、
0:41:21	4 の、
0:41:23	4-4 ページ。
0:41:25	そうですね。
0:41:26	上から 123、IV。
0:41:31	ロック。
0:41:34	7、7、7 行目の、
0:41:37	テライforテライと結晶粒度試験を省略しても良いことが示されているが、これは図別 4-4 の結果、
0:41:47	アと同様であるという。
0:41:49	ことなんですけど、
0:41:53	文章の流れでいくと、別、別 4-4-一つ。
0:41:59	結果とJISの津キシモト図があって、
0:42:04	それでおんなじですよって書かれているように、
0:42:07	読めてしまうので、ここもちょっと表現を考えていただきたいなと思いません。誤解のないように、

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:42:18	方がいいと思いますが、いかがでしょうか。
0:42:22	はい。ありがとうございます日立造船の武内でございます。こちらについては、アノオザワおっしゃっていただきましたように、こちらの回数ではこのような図面を用いた説明というのはないので、その誤解のないようなちょっと書きぶりに改めさせていただければと思います。
0:42:40	はい。よろしく申し上げます。
0:42:43	はい。ではしません。続きまして、
0:42:47	別紙の 5 の方。
0:42:49	そうですね。
0:42:51	ベッショ 5 の方で、
0:42:59	そうですね。ここ、いろいろとこう説明されているんですけど、
0:43:04	一番肝心なところとしてですね。
0:43:08	先ほど竹内さんの照度の影響を確認するようなお話をされていましたが、
0:43:15	小コウでまず言わないといけないのはこの有効性確認試験っていうのを、何のためにやるんですかということです。何のために、
0:43:27	この試験のゴールは何かということ、まず最初に目的として明示していただきたいということです。
0:43:35	これを、
0:43:37	最終的な目的は、
0:43:41	私の理解では、
0:43:47	説明資料の
0:43:51	設計共同設計を共同の。
0:43:55	設定の
0:43:58	技術的な妥当性、
0:44:00	漏えい示すものだ示すためにやられるのかなと思うんですが、その点はいかがなんでしょうか。
0:44:09	はい。ありがとうございます。日立造船の竹内でございます。今小澤様からおっしゃっていただいたものもそうですが目的としては 2 点ございます。1 点目が、今おっしゃっていただいたその設計の強度設定の妥当性ですね。
0:44:24	こちらが母材に対する小損をしたものに対する、
0:44:30	問題に対して照度んした場合に、小損していないものと比較して強度の変化がないこと、これを確認することで、設計強度の妥当性を確認して参ります。

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:44:42	もう1点が、やはりその冷間による曲げ加工で、歪事項を生じて、照度にすれば、脆化しないと。
0:44:53	いうことを確認すること。これが、要は、健全性に関わる部分ですね、この部分を確認することが目的の一つということで、目的二つございます。
0:45:04	この二つの目的を明確に、概要のところに記載することとさせていただきます。よろしいでしょうか。
0:45:14	はい。小澤です。それでよろしいかと思えます。よろしく申し上げます。はい。ありがとうございます。
0:45:28	それでは引き続きですね、
0:45:32	別紙こんなんですけど、
0:45:36	まず、今回、今ご説明していただいた目的、二つの目的を前提としてですね、
0:45:47	雑魚この少ない条件で、十分にそういう比較データがとれるんですよとかちゃんと安全性、健全性担保できるんですよという、
0:46:00	そういうですね、版そういうふうに判断して良い根拠もですね、条件設定のところで、説明を書き込んでいただきたいと思いますと思うんですが、いかがですか。
0:46:24	率直に言ってですね、
0:46:27	SG295。
0:46:30	を評価したのと同じだけ、本来やらないといけないんじゃないかという考え方もあると思うんですがそれを、そうではない、少ない条件で実施される
0:46:43	考え方を示していただきたいと、いうことです。
0:46:53	オダさんちょっとわかりにくかったら翻訳いただきたい。
0:46:59	大丈夫です。
0:47:36	日立造船の樋口でございます。当社といたしましては、小澤様の言われた通りのことを、に行って対応させていただこうと思うんですけれども、
0:47:48	考え方といたしましては、母材の強度に対しまして応力除去総論の影響がないこと、それから泉事項をにしましては、応力除去所存により、
0:48:02	伸びが回復することによって、税制、は税制が脆化しないことということ、を、二つを確認することによってですね、
0:48:13	まず重要なのが、当初、その応力場挙証論をしていない材料に対して、材料特性を取得しておりますが、

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:48:25	その材料特性が、に対して、大きな有意な影響がないことと、あと、それに基づいて設定した規格値なんですけれども、
0:48:36	そもそもの出発点がですね、JISの規格値、保守的にJISの規格値の方が低かったので、そちらを出発点にしてトレンドカードを、材料試験から、ているんですけれども、
0:48:49	つまりそういった観点で、規格値に対して、保守的で保守的なデータであることということの二つを説明することによって、
0:49:00	対応させていただきたいというふうに考えております。いかがでしょうか。
0:49:10	はい。
0:49:11	長期健全性とですね、あとその強度的なところで、保守性が担保される説明であれば、よろしいかと思えます。
0:49:22	松野さん、櫻井さんいかがですか。
0:49:27	はい、どうぞ。
0:49:36	はい、承知いたしました。
0:49:40	よろしく申し上げます。
0:49:42	じゃ、すみません引き続き、次はちょっと細々とした話なんですけど、
0:49:49	A、
0:49:50	別紙 5 の 2 ページ。
0:49:53	うーん。
0:49:56	別紙 5-5 の 2 ページで、
0:50:10	と、
0:50:14	銀行、
0:50:16	移行処理を行うと短時間で、効果低下が完了すると報告があるとあるんですけど、
0:50:24	これ教科書が何か引用されているとあっていて、
0:50:28	これ、教科書だとオオキ気になっちゃうので、ちゃんとその主張するですね、元データを示して説明していただきたい。
0:50:40	思います。そんな対応可能でしょうか。
0:50:46	はい。日立造船の竹内でございます。
0:50:48	ここ、今ご指摘をいただいた部分ですね、この
0:50:52	いわゆる人口事故処理を行うとの文言は、おっしゃられるように教科書の文言です。この部分には特に何かしらの引用があるわけではないんですけれども、
0:51:06	そのあと、また

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:51:11	今度は照度のところの部分の記載も含めてですね、ちょっと何か図面に基づいた説明ができないかということはちょっと検討を持ち帰り検討させていただきます。
0:51:24	はい。よろしくお願いします。
0:51:27	それと、その次の行なんですけど、
0:51:34	250度の1時間、
0:51:37	ですね。
0:51:39	で、この事故処理によって、
0:51:43	イトウ泉事項の影響調査できると考えられる。
0:51:48	というのを、
0:51:49	そこを今図面で説明していただければわかるんですけど、このなお書き以降ですね、後半のひずみ事故検討した過去の報告においても、
0:52:02	同じ事項処理条件が適用されており、
0:52:06	この条件妥当と考えられるとあるんですけど、
0:52:09	これ、文献番号4番の堀川先生の文献とあと英語版の本間さんの文献でしたっけ、これは両方とも、
0:52:21	徐常務。
0:52:24	橋梁とか、その辺を対象とした事項の試験、
0:52:29	研究だと理解しています。で、堀川先生、4番の堀川先生は、
0:52:36	これは上オンダと半年から1年程度の事項以上か。
0:52:44	半年から1年以上の時効条件と、常温の時、事故条件とあるのかなということを書かれている。
0:52:53	程度で、あと、本間さんの文献には試験条件がほとんど書かれているだけでその考え方一切書かれてない。
0:53:01	ということです。このなお書き以上のですね、
0:53:06	一体ここで言いたいことっていうのはちゃんと根拠のあるものになってないと思うんですが、
0:53:13	そこいかがですかね。
0:53:20	はい。日立造船の武内でございます。小澤様おっしゃられましたように、引っ張っている分系についてはこれ橋梁の上における、ひずみ時効を考慮して高温で、
0:53:34	各試験しているもの。
0:53:37	ということになります。当社としましては、ひずみ事故自体が高温ですね、100度からおよそ250度程度で、短時間で完了するものと、

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:53:48	という観点からいきますと、その常温の半年会社それ以上の保持に対応している、この 250 度 1 時間の時効処理条件、
0:53:59	というのは、高温で使われるキャスクに対しては保守的な条件というふうに考えております。従って、常温での長期的なもの。
0:54:10	に対して行っているこの 250 度、1 時間という条件は、キャスク高温で使われるキャスクにおいても、適用できるものというふうに考えております。
0:54:21	いかがでしょうか。
0:54:27	どういう、
0:54:29	ちょっと、ちょっと私は今のそのこの説明は理解できないんですが、むしろ先ほどの全般の全体、先ほどのお話のですね、
0:54:39	250 度の
0:54:43	30 点、
0:54:45	程度以上。
0:54:46	であれば大丈夫という説明があれば、
0:54:49	それでいいのかなと。
0:54:53	このなお書きが入るところでむしろわかりにくくなっちゃうんじゃないかなという、そういう理解ですが、
0:55:00	ありがとうございます今のところですね、
0:55:04	いわゆる人口事故処理を行うと、短時間 30 分程度で高課税化が完了する。
0:55:10	へえ。
0:55:12	というところをですね、この部分、
0:55:14	例えばこの部分までで止めておいてその後の文章を付け加えることによってちょっとわかりにくくなるということであれば、こちらはちょっと削除させていただければと思いますいかがでしょうか。
0:55:27	そこはお任せしますが、説明、
0:55:33	1 セイノRmわかりやすい表現にさせていただければと思います。以上です。はい、承知いたしましたありがとうございます。
0:55:46	すいません引き続きなんですが、
0:55:50	5-2 ページの一番最後から 5 の、
0:55:54	3 ページに掛けても、
0:55:56	ひずみ時効で生活した鋼は、600 度前後の応力場と、応力除去照度ん。

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:56:03	である程度オカ韌性が回復するっていうのも、これも先ほどと同じように、
0:56:09	教科書の運用だと思うので、これも根拠となったデータをですね、を聞いて説明していただきたいと思いますが、いかがですか。
0:56:20	はい。日立造船の竹内でございます。こちらについても引用できるものがないかということでのデータに基づいた説明ができるようにさせていただきます。
0:56:31	はい。よろしくお願いいたします。
0:56:33	すいません、私のコメント最後になりますが、別紙 5-3 ページ、
0:56:41	そうですね。
0:56:49	先ほど、次だな、
0:56:54	HzSG295hrに対して、650 度以下、期間を 2 時間の小ドイ、
0:57:04	置した場合、
0:57:06	これ別紙にA-Aを参照して、
0:57:11	4. コウ 625 度Cの 1 時間の照度はバスケット用しょう。
0:57:19	別紙 2 をよりどころにして説明されているんですが、先ほどの目的のところでご説明していただいたように、
0:57:29	これ防災の話で新屋防災の話であって、0 確保したものに対しては、
0:57:36	有効かどうかっていうのは、今ここで確認するという位置付けですよ。そうするとちょっとこの書きぶりを改めていただく方がよろしいかと思うんですが、いかがですかね。
0:57:51	はい。日立造船の竹内でございます。こちら別紙の 2 では簡易的に硬さによる評価をしておりますが、
0:58:01	母材強度に対する勝井の影響を引張試験、や金属組織観察等ちょっと詳細に行うということで、ちょっとコウがですねおっしゃっていただいたように、
0:58:14	ちゃんとその目的と、
0:58:18	混同しないようにちょっとわかりやすく、書けるように、記載ぶりは改めさせていただきます。
0:58:25	よろしくお願いいたします。全体を通してですね、説明性のあるもので、そして、目的、目的を意識して、それに対する、
0:58:37	ちゃんとしっかりと答えられるような形で、試験の説明、あと試験の計画していただければと思います。私からの個別は以上です。
0:58:49	ありがとうございます。
0:58:52	規制庁の、

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:58:55	はい。
0:59:02	長フクダさん、布田です。
0:59:06	衛藤。
0:59:08	別紙C5 のシリーズで、
0:59:11	底辺の内訳があつてですね、符号ABCDというふうな、それぞれ、
0:59:20	吉井です。
0:59:21	条件としてどう処理したりとかしたつていう、全部で4種類あるんですけど、これ4種類全部に対して、
0:59:28	先ほど示された説明された試験を全部やるつていうそういう認識でいいでしょうか。
0:59:38	ありがとうございます。日立造船の武内でございます。これ、
0:59:43	例えばですねDの受け入れ材に勝井を施した材料、こちらについては、勝井による五大強度のテイカーのみを確認しますので、
0:59:55	靱性についての考慮はしません。従つて、このDについては、引張試験と、金属組織観察、硬さ測定のみになると。
1:00:07	ということでちょっと細かいところでいくと、やらないものというのが入ってきます。
1:00:15	ありがとうございます。必要に応じて、
1:00:19	星取表で十分知見がえられるような、フレックスでやってくだされればそれでいいと。
1:00:25	それから私もちょっと戸澤さんと同じ今月だったんですけども、
1:00:30	前の資料で、
1:00:34	説明している別紙の4、4シリーズですね、
1:00:40	可用性アルミニウムの手数料の関係の審査会合私の方から示させていただいたんですけども、非常に、
1:00:50	わかりやすい図で探してくださつてどうもありがとうございました。
1:00:55	ございます。
1:00:57	衛藤。
1:00:59	今回、別紙の5の方に戻りますけれども、
1:01:03	この
1:01:06	成果の確保及びする指定ねあの2人のみで作成されるというようなお話だったんですけど、
1:01:16	これだとかも。
1:01:18	粟田所長さんお触れ。
1:01:20	発電したやつ。

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:01:22	八田理事からデータのkatouchayattaほうがいいのかなと思ってたんですがそうじゃなくて、
1:01:28	張りをして、
1:01:30	5点間の間が均一に伸びるっていうのが前提で、その中から、試験の採取する。
1:01:37	Aと答弁の距離から、
1:01:40	D、
1:01:41	Dが効率を高めるっていうそういう発想っていう理解でよろしいでしょうか。
1:01:46	はい。日立造船の竹内でございます。福田様からコメントいただいたように、この評点距離の内側ですね、こちらにひずみゲージを張りつけて、
1:01:56	22%の泉が獲られたことを確認したところからコウ試験を取っていくようなイメージです。
1:02:08	あとありましたそうすると、この間は、
1:02:11	当たり前ですけど、均一に伸びるっていうのが前提で試験を、そっから取るという、
1:02:18	二つが、シャルピー試験は、低温だけというふうな記載があったんですけども、
1:02:25	あともう一つ、シャルピー試験、サブサイズスケール使われるということなんですよ。
1:02:31	この場合
1:02:36	フォースISCN使うとちょっと、割と非保守側の、
1:02:42	データを取ってしまうんじゃないかというような話もあるので、試験結果にもよるんでしょうけども、
1:02:51	ちょっと注意、
1:02:54	もうこれ試験結果と後から出てくる。
1:03:00	メントありがとうございます。こちらですね、シャルピー衝撃試験、なんですけれども、フクダ様おっしゃられるように、標準の試験に対してサブサイズの試験を用いますと、
1:03:13	例えば上部棚のエネルギーが小さくなって
1:03:20	遷移温度が低温側に移動するような、専用の観点からいくとかなり非保守的側の評価になってしまうという懸念があります。しかしながら今回の試験では、同じ5mmのサブサイズの試験ですべて相対評価をします。

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:03:36	受け入れ材に対して靱性が上がったか下がったかというものを、すべて同じ 5mm のサブサイズの試験で評価をいたします。
1:03:44	ここです、ね JIS 規格の JIS Z 24 に、金属材料のシャルピー衝撃試験では、試験結果の直接比較は、同一形状及び同一寸法の試験の場合だけ意味を持つという記載がございます。
1:04:01	従って、同じサイズで比較をしている限りでは、保守性と、非保守性ですかね、この部分の観点は、一応
1:04:13	議論しなくていいというふうに理解をしています。
1:04:18	ご説明ありがとうございます。内容認識いたしました。ありがとうございます。
1:04:24	私からは以上です。
1:04:26	ありがとうございます。
1:04:28	はい。
1:04:31	すいませんオザワですが、よろしいですか。はい。お願い。
1:04:35	ちょっと見落としてたんですけど、これ、シャルピー衝撃試験温度は -23 度、
1:04:42	-23 度だけです。
1:04:46	するという。
1:04:47	等のようなんですけど、
1:04:50	これシャルピー衝撃試験って何のためにやるんですか、あと、
1:04:55	そう。
1:04:57	熱処理した後の材料の
1:05:01	平成を定性的に確認するとすると、
1:05:08	もしかするとコーナーの方が、新アノ使用運動とか、
1:05:14	そっから上の間とか、要は先ほど日比さんがおっしゃったように、鮮度の上昇とかですね。
1:05:24	そういうところちょっと考えないといけないんじゃないかと思うんですが、どうしてこれ -23 度だけとするってそれ、何か技術的な説明できますか。
1:05:35	日立造船の武内でございます。こちらの最低使用温度をですね、マイナス 23 度としている理由といたしましては、やはり低温であればその吸収エネルギーが下がって靱性が下がる。
1:05:50	ということが懸念をされますので、この最もその人生に対して考慮すべき温度帯という観点からこのマイナス 23 度と、
1:06:01	いう温度域を設定しております。その中で、敬礼材、実行した材料、さらには、商談してから実行した材料と、

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:06:13	ということで比較をすることで、受け入れ材に対して、ひずみ事故が起これば、脆化するけれども、所存をすれば、それが受け入れ材相当まで回復しますよと。
1:06:25	ということを確認するために、実施をする試験となっております。
1:06:32	さらに衝撃試験っていうのは、あんまりその値とか、-23度とかその、
1:06:39	そこで言われた急性期とかって、信用できるようで、あんまり、
1:06:46	ああそうですかっていう程度の値だと私は理解していて、むしろ善意温度がですね上昇するんじゃないかとかそういう側面で、
1:06:57	実施する試験であると思うんですが、
1:07:01	それで、そう。
1:07:03	考えてですねちょっと、
1:07:05	お伴等のSGに救護隊ってどういう試験されてたんでしたっけ。小使用温度から帝王まで全部フルで取ってます。
1:07:18	日立造船の竹内でございます。SG29号の防災の試験に関してはですね、常温から最高使用温度+50度の350度までの、
1:07:31	高温引張試験を実施しております。特にシャルピー衝撃試験等は実施をしていないものになります。
1:07:44	立岩もともと実施していない。
1:07:49	だったということじゃ、どうしてここで、それは低温人生に影響しないかどうかを確認するため、あ、はい。
1:07:59	コメントいただいた通りでございます、メインでは、受け入れ材と同じように、高温上及びコウの引張試験で、
1:08:10	そのひずみ事故が起こるかどうかが、照度によってそれを抑えることができるかどうかを評価していくんですが、確認の意味も含めまして今回シャルピーもとっておこうということで、実施をするものになります。
1:08:26	すいません。
1:08:28	その中に9号材は、
1:08:31	車中試験で破壊靱性試験をしてたんでしたっけ。
1:08:37	人生に関わる要求項目というのはないと。はい。そういうことです。すいません。
1:08:44	わかりました。
1:08:49	ですねこの0.2%以下の断行であって、全サカイが生じにくい、16ミリ以下の薄井鋼板であるため不要であると、いうふうに、な、新規材料採用ガイドラインの要求項目ではなっております。
1:09:03	そうですね。

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:09:04	そうでしたそうです。
1:09:07	ですね、
1:09:10	すいません、こういう
1:09:13	実際にはこの説明資料を見る人というのはここでの議論を全つぶさに見ているわけではないので、
1:09:21	まず、先ほども、最初に申し上げたように試験の目的を明確にさせていただいて、
1:09:28	この試験の全体の目的と、
1:09:31	あとそれぞれの材料試験のですね目的をそれに合わせて、明確
1:09:38	に明示していただけると説明性の高いものになると思いますので、ご検討いただきたいと思いますが、いかがでしょうか。
1:09:45	はい、承知いたしました。
1:09:48	よろしくをお願いします。
1:09:49	ありがとうございます。
1:09:52	私からは以上です。
1:09:54	はい。
1:09:57	阿部さんから何か。
1:10:01	今回は特にございませんが、やはりどうですかね実際物を作るときに、何を保証して、それであれば設計別設計でいろいろた
1:10:14	設計用のデータといろいろあると思うんですけども、それが保証できるというシナリオ、そこがきちり一本通ったものであって、それが理解できるような説明資料になっていればいいと思います。
1:10:27	だからそういうことをここ、今小澤さんとかですね、フクダさんいろいろ言われたことがそのプロセスとなると思うし、それぞれ、要は最初のデータ取るときやいいんだよっていうところ
1:10:40	エビデンスたるところが明確になるように、説明資料を取りまとめたいただければ結構です。
1:10:50	はい、ありがとうございます。資料の訂正、修正進めさせていただきます。
1:10:55	はい。お願いします。
1:10:59	はい。
1:11:16	すいません、自動セイノヒグチでございますがその前に、
1:11:19	審査会合でいただきましたスランプ構造に関しましては、補足説明資料 16-1 の別紙 2 の方で、

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:11:31	ちょっと記載を改めさせていただく方向でちょっと検討させていただきたいと思います。
1:11:36	では引き続きまして、A社系の表面線量のあたりにつきまして、弊社の方から説明させていただきます。
1:11:45	はい。日立造船の吉田です。衛藤。
1:11:49	前の審査会合の際に遮へいの日比 69 型の表面における線量率の値につきまして衛藤。
1:11:57	TLCにイサーンを使った場合の値っていうのが過小評価を含むというところでその値を
1:12:05	申請書上の値の方を見直すべき、見直しをふやすというようなことで、衛藤、ちょっとストーリースピード補足説明資料の方、修正したものについて等、
1:12:17	示させていただきます。
1:12:22	衛藤。
1:12:23	お配りしています補足説明資料 16 のサーンの、衛藤者につきまして、
1:12:29	どうろ時空。
1:12:31	ですね要求事項への適合性ページ 5 ページ。
1:12:35	見ていただきまして、
1:12:39	基本的には粒子に硫酸キャスクを使用して求めるというところは維持したままで衛藤仙田泉課長よくある評価 1 では、また決するJ3 サノアベを用いることとするというような、衛藤。
1:12:53	しようかなとさせていただきたいなというふうに
1:12:58	したものになっております。
1:13:00	江藤具体的には、どういうことになるかという、布施先生の資料 16-3 の 9 ページのところに、
1:13:08	道州制、
1:13:10	目立つようにしてますけれども
1:13:13	このDS23 ライブラリを用いた場合に、セントライズを過小評価する可能性が、を考慮するということは、衛藤雄心さんキャスクライブラリーを用いることによる、
1:13:26	先月アカシ評価としては
1:13:29	後程別紙の方で書いているんですけども中性Cの戦略率を過小評価する、どういったところで、
1:13:38	過小評価する可能性があるかって言いますと、衛藤徹の断層とかのところが、気になるというところで、

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:13:46	ここの、
1:13:49	具体的に、部位をここでは記載しているんですけども底部径方向というところに着目してそちらでは、適切リビエさんライブラリを用いた場合の値を
1:14:01	評価評価というのはこれは基準を、対して江藤水上出せないかというような観点で、記載させていただいているということになります。
1:14:18	関連し、
1:14:20	衛藤修正している部分というのが、同じくフロー図の方ですね
1:14:26	補足説明資料 16-3 の 12 ページに示しているフロー図の方で、
1:14:32	基本的には面積ライブラリアビル真珠さんキャスクライブラリーを用いるということなんですけど注記がきいささせていただきますと、
1:14:39	線量率の過小評価が認められる評価位置では、適切LGサンゴラベル用いた、ここで言ってる境界値っていうのが、衛藤。
1:14:48	評価としてこの表面最大、もしくは表面から 1メートル離れたところにおけるというところでそちらの値が、少なくとも一番活躍が認めるところでは全くIIIAS小山内倉持。
1:15:00	というような観점에서書かせていただいております。
1:15:09	衛藤関連して別紙の方ですね衛藤。
1:15:14	具体的に、
1:15:16	と思う。
1:15:20	あ、すいません。
1:15:23	衛藤。
1:15:24	この適数リブJさんの値を申請書を記載するということで、衛藤解析コード、ABWRの統制ということで別紙の 5。
1:15:34	ですね、次、補足説明資料 16-3 ページの 5。
1:15:40	別紙の方の 4 ページ以降のところちょっと色彩は追加させていただいております。
1:15:47	また別紙の 6 の方に衛藤。
1:15:50	具体的にどこのところを
1:15:53	評価 1 にするかっていうところ、
1:15:56	このDイシイとあと又吉藤江さんの両者の結果を見つどこを評価するかというようなことに触れさせていただいたというような、
1:16:06	考えて、修正したものになります。
1:16:09	こちらからの説明は以上となります。

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:16:23	議長のテラノですみません修正いただきまして、ありがとうございました。
1:16:27	ちょっと少し修正というかもう少しストーリーを強化していただきたいところ、していただきたくて当間先ほどご説明の元の方で、おっきなストーリーとしては過小評価、鉄の断層の部分を、
1:16:41	修正者が抜けていくところヶ所評価してるところ、基本的にはマークでやります。そういった前提が、そういった前提があって、そうは言っても下の方を見ると、テーブルの
1:16:53	そこ、そこだけやりますで、
1:16:56	評価結果一方で評価結果それぞれお調べてみると、それだけじゃなくて、おそらくいくつか過小評価しているところが明らかであるところが、
1:17:06	ある、あると思うんですけど。
1:17:09	その何て言うかね、ストーリーをもう少し、
1:17:13	太くしていただいて、
1:17:15	過小評価してるところは幾つかあって、ここについては、またExcelリングでやります。そうは言っても最大でその結果最大値は、
1:17:23	まず、
1:17:24	あるところについては、DLCRところについては全くセリフになるっていうストーリーを立てていただいた方が読み手としては読みやすいかなというふうに、
1:17:33	思うんですけど。
1:17:36	瀬瀬瀬下です。江藤。ちょっとあの頭考えの前提といたしまして、
1:17:43	そのPLCを使った結果が、必ずしも非保守的になると考えておりますそれが、衛藤瀬野通り実際の
1:17:54	状況を考えたときに、それが過小評価になっているというふうには、必ずしも教わると考えてないところがあります。江藤というのも線源強度とモデル化のやり方と、
1:18:07	補正は他のところで積んでる部分があって従来のDC23を使った評価で、
1:18:15	そこそこが確認されているというところも、そういう実績を踏まえまして衛藤。
1:18:19	必ずしもそのExcessiveの値の方が大きいから、DL真珠さんが過小評価で、実際に評価すべきものに対して過小評価してるとは、

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:18:29	直接結びつけては考えていないということになります。規制庁の寺田です。一応そこはわかってるつもりで、どちらかライブラリでやった方の高い方の値をとって欲しいということでは、
1:18:41	なくて、先ほどの
1:18:44	別の炭素云々のところの理由で、明確にこちらが高いよっていうところについては、
1:18:50	過小評価してるよっていうところについては、適正リブでやりました、評価しましたっていうストーリー。
1:18:56	にはならない。いえ。
1:19:04	規制庁てるのでその部分が結局そのところ今、評価結果としては全く整理分を使った部分だけですよっていう説明になってるってことですかね。
1:19:15	何かその他にもいくつか過小評価しているっていうところはない、ないですかっていうふうに。
1:19:20	ないですかっていう質問と、そういうふうな層理にはならないのかっていう。
1:19:38	すいません。衛藤先生と、
1:19:41	おっしゃられていくことと
1:19:46	それ、高いところどりをすべきということではないと。
1:20:00	別紙率で、
1:20:03	全部
1:20:04	で比較してあるわけじゃないです。
1:20:06	その紙を1人から見たら、要は、鉄の乾燥等カーが、
1:20:15	PLCではね、懸念されるところがあるっていうことはある程度、公知の事実として、それに対してやってみたというところですね。
1:20:25	やっぱりその上下のドッカー例えば、確か、今ちょっとそこ見てないんですけども、
1:20:31	上部の、
1:20:33	フタミの事故報告。
1:20:35	スポーツの担当の方とか、担当の確か、
1:20:39	上部の例えば、トラニオンとかどっかだったと思うんですけども、そういうところも、
1:20:47	明らかに、炭素灯火の1たん相当かな。
1:20:51	その影響が出てきて、
1:20:53	高いわけ。

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:20:55	一応、
1:20:58	このキャスクに対してどう評価しますか。
1:21:01	その断層等か。
1:21:04	中性子が、鉄の炭素を到達するところについては、こういう懸念があつて、実際別紙 6 で示した通り、
1:21:14	そういう傾向が出ていますということで、
1:21:17	であることから、その上で、
1:21:22	当然信頼性が、そういう面での結論単相淘汰に対しての評価に信頼性が高い。
1:21:28	マッチ率、
1:21:32	同 1 物流部ですか。
1:21:34	このライブラリを使った結果を採用したってということね。
1:21:38	示しておけば、
1:21:41	説明になるんじゃない。
1:21:43	思うんですか。
1:21:45	要は、一番高い
1:21:48	どうしても目が行きがちなんだけども、
1:21:52	一番高いところ、
1:21:54	その選定するっていう説明
1:21:56	でどうなのかっていうことで、要は上部、中央部程度の径方向とか地区方向ところ、一通り全部眺めて評価されてるわけです。
1:22:06	その上でこの部分はこうですよ、この実行の部分はこうでやっぱりその通りでしたよ。その結果、
1:22:14	ピックアップしたら、こんなになりましたよ。
1:22:17	確かに 1メートルの位置になる。
1:22:19	よそからのやつ。
1:22:22	影響が出てきたりする。
1:22:25	思う。
1:22:26	で、その扱っていう、
1:22:28	かもしれません。
1:22:32	今言ったような、
1:22:34	せっかくどうですかね、別紙 6 で評価されたよ。
1:22:40	して、ライブラリを使った評価をした
1:22:43	その結果ということと、その結果の考察を踏まえてこうしたっていうふうなね、説明した方が、説得性はあるのではないかなと。

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:22:53	思ってるんですけどもいかがですか。
1:23:01	失礼します。衛藤。
1:23:03	ありがとうございます。江藤。
1:23:07	江藤セキさんが不十分かもしれないんですがそうですね東村。
1:23:14	そのような、
1:23:15	イトウを残したところではあるんですけどもちょっと記載が不十分だったかもしれないとは思っております。
1:23:27	要は示された結果っていうのは、
1:23:32	いい意味で、
1:23:35	ちょっと、
1:23:37	そ、そのベースとしてはしっかり全部やってやってるんですよっていうところそのようは、
1:23:42	プロセスまで全部追っかけられて、最後に、
1:23:47	結論を導かれてる、ほぼ、
1:23:49	それが、
1:23:51	下須藤に読んでる人、
1:23:55	ここで、
1:23:56	その再設計、
1:23:58	あるというところで説明が、
1:24:02	十分に理解が理解れるっていう、
1:24:07	いうふうな形でね、少し、要は、
1:24:11	金属で取得っていうのをやっぱり最大限に生かして、
1:24:17	それからその前の本でもその鉄の乾燥 10 日っていうところの日星で、
1:24:22	て導くという懸念と、それに対して別紙 6 をやったということと、それを踏まえて整理をしたら、
1:24:31	結果、例えば効果と書いてあった定義提携報告。
1:24:36	すごい違う。
1:24:39	結論。
1:24:41	須藤、1 本のストーリーでね。
1:24:46	繋がっていけばいいんじゃないかなと。
1:24:52	はい、廣瀬です。C、
1:24:54	説明したいと思う。
1:24:56	ちょっとストーリーが、わかりやすくなるように。衛藤。
1:25:01	ちょっとまた検討させていただきたいと思います。
1:25:09	なお言えば、要はその別紙、別紙 6 のやつをね、

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。
発音者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:25:14	全体の最後の総括を見たら、助かったと思うんですけども、そちらの方でやって、
1:25:21	これについては、鉄を通す、多少投函ところ影響があるんでこれを採用したっていいんじゃないですかね。そういうことがわかるようにして、
1:25:30	一応拾うところはちゃんと、
1:25:33	正しくその最大線量当量率を示すところ、
1:25:39	そのあたりはこれですよってこと。
1:25:42	以上です。
1:25:52	ありがとうございます。
1:26:09	規制庁のゴコウです土肥今野展なんですけど、
1:26:13	別紙 6 の 4 ページに、
1:26:16	解析モデル図ありますよね。
1:26:18	ここの点、評価点を、
1:26:21	表、各方向でここが最大でここの値を、前のページの、
1:26:26	数字を求めました。
1:26:28	で、
1:26:30	⑦っていうのが最終的に表面で最大のところになって、
1:26:35	ここは鉄の断層投下の影響が激しく出ていくので、
1:26:39	ここはまたExcessリブを使いましたと。
1:26:42	今、衛藤。
1:26:44	資料に書いてあるのはそこまでなんですよね。
1:26:48	何名、何ページかにわたってこの話が何ヶ所か出てきていて、
1:26:54	過剰評価がある。TLCで過小評価がある位置については、まっとうExcessリブJ33 を用いるって言っているところと、
1:27:03	過剰評価がこの底部計方向にあるのでそこについては、またエクセルを使いますって書いてあるところがあって、その間が抜けてるんですよ。
1:27:13	だから、
1:27:16	PLCで評価しました。
1:27:18	DLCの特性というのはよく理解しているので、別の断層等があるはずだからまたExcessSLIVで検証しました。その結果、
1:27:27	過剰評価が認められたの底部径方向だけですとしか読めないんですが、今のところ、
1:27:35	別紙 6 の 3 ページの比較評価結果の比較表を見てみると、
1:27:41	大体斜め方向っていうのは、

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:27:44	TLCが過小評価って値になってきて、
1:27:47	09 斜め方向というのはほとんどが、
1:27:50	鉄の炭素透過パスができちゃっているので、
1:27:54	そこは影響ないんですか。
1:27:56	ていうのが、まず書かれていない。
1:27:58	で、過剰評価っていうのはあくまでこのDMCライブラリの特徴として鉄の炭素透過の影響で、実測値よりも低く出ちゃいますよっていうのであって、マットXSLIVと比較して、
1:28:10	被告でちゃいますよって話ではないっていうのは先ほど説明いただいたので、これはお互いに認識が一致しています。
1:28:17	だから、例えば側部方向で、
1:28:20	PLCライブラリーが低くてもそれはたまたま、たまたまというか、
1:28:24	それが解析結果であって、お互い不確かさがあるので、大体同じぐらいの値を出してますねってそれでいいと思うんです。
1:28:33	で、最終血管の底部径方向が最大を示しますよっていう結論を導こうと思ったら、どこがDLシライぐらいの結果を持ってきてどこが、
1:28:44	真っ当Excessリブ後結果を、
1:28:47	を採用してそれらを全部ひっくるめたときに、
1:28:51	底部警報コウノマットExcessリブの評価結果が最大を示したので、それが申請書に載ってますよ。
1:29:00	てところの結論まで持っていってもらおうと。
1:29:03	ストーリーがぱんと通ると思うんですけども、
1:29:06	だから、今は、
1:29:10	各評価位置についてどっちの欄、どこはどこがどっちのライブラリを使ったんだ、なぜならこう、こういう、
1:29:19	理由があるからです。
1:29:21	ていうのがちょっと曖昧で、はっきりしてるのは底部径方向の最大値を示すところについてはこうだ、
1:29:27	ていうのだけが書かれているので、
1:29:30	そこを例えば、
1:29:33	6-3 ページの比較表があるので、
1:29:36	この、この位置はこっちの値で、ヒコウカの場所と比較します。
1:29:41	てこで、例えばそこ北部だったら、DLCの値を使います。
1:29:47	TMK方向だったらまたExcessリボンを使います、頭部の径方向はどっちです。

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:29:53	それぞれ全部並べたときに、一番最大っていうのを見てやったら、
1:29:58	最終的には底部警報コウノまたExcess陸の値です。
1:30:02	それが申請書に出てきます。
1:30:05	ていうのが、
1:30:08	どこかに一貫して書いてあって、ないとわかりにくい。
1:30:12	あっちこっちのページなんで、これはどこに書いてあるとどこに書いてあるこの数字はどこを比較すればいいんだっていうのが、
1:30:19	我々はずっとやりとりしてるからわかるんですけども、
1:30:22	突然これをぱっと見せられた人が、
1:30:25	理解しようと思ったらすごく時間がかかってしまうので、
1:30:31	その辺のそれぞれの理由を明らかにして、こういう段階を踏んで最終結論た。
1:30:39	たどり着いてこの数値をアノし、申請の値として、
1:30:43	出しますよ。
1:30:46	ていうところまでまとめていただければ、
1:30:49	結果についてこちらとしても、
1:30:52	最初、結論として特に問題はないと思ってますので、
1:30:56	その辺りうまくまとめてもらえればいいと思いますけども、頭の整理はだんだんできてきましたでしょうか。
1:31:05	はい。江藤。ちょっと確認された
1:31:09	服装についてわかりやすくなるように
1:31:12	はい、衛藤石井です。確認して、検討します。はい。
1:31:24	規制庁松野です。では会合の指摘事項に対する回答に関してこちらからの確認質問は以上となりますので、
1:31:34	あと、本日は、これまでのヒアリングで、
1:31:39	まだ見込みかイトウな点がいくつかあると思いますので、
1:31:42	ちょっと時間もちょっと押してますので、簡単に説明をお願いいたします。
1:31:50	はい。日立造船の緒方です。それでは続きましてこの資料1-1ヒアリングコメント管理表と、関係するヒアリングコメント回答という資料1-2を用いて簡単に説明いたします。
1:32:03	まず残った甲斐氏、確認事項としては一つ目が、ナンバー15番。
1:32:11	管理表の4ページ目、ナンバー15番、こちらは一部他の材質がステンレス法であるが、本体が炭素コウということでこちらの熱膨張の影響ということで、こちら資料1-2の

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:32:23	1 ページ目。はい。具体的に本体胴と蓋の熱伸びの計算を、設計温度での熱伸びの確認を、
1:32:33	しまして、設計温度でも、一次分だと本体胴の間には隙間があることを確認しております。ですから、熱膨張の影響としては特に
1:32:46	膨張差による影響はないと、ですから設計として、隙間も確保できる設計としておりますので影響ないということで、回答いたします。はい。
1:32:57	なお構造解析では当然温度依存性を考慮した解析をしておりますので、仮にということはいはい各部の線膨張係数を設定して、
1:33:07	解析はしておりますので、確認はできると。そそういった影響があったとしても、確認はしておるところです。はい。
1:33:15	まずはい。熱膨張がないということで、熱膨張差、隙間があるということでご確認
1:33:22	確認いたしました。はい。では続きまして、
1:33:26	ナンバーがA、
1:33:29	124 番、こちらがですね 26 ページ目になります。
1:33:35	はい。
1:33:36	こちらですねフランジ部に、津波引き続き 24 では、形ではフランジ部に津波荷重を与えているHitz-B69 型では、
1:33:46	こちらは同中央部に荷重を与えているというところで、こちらの荷重点の妥当性について、
1:33:54	ですが、こちらは先ほどの資料 1-2 の 2 枚目、はい。
1:33:59	コウノに説明させていただきます。はい。妥当性の確認をしております。
1:34:04	簡単に説明しますと、ヒッピーにB69 型、今回も同様に、ヒッピー-24 型と同様の評価を行うというところですよ。
1:34:15	この評価につきましては、こちらは全く同じ今回の鍛冶設計荷重ではなくて、我々が検討段階で種開示し実施しておりました解析を用いての説明となります。
1:34:30	こちらがですね筆記 24 型と同様の荷重点。
1:34:35	での荷重を考慮した場合、こちら側の 3 ページ目。
1:34:39	示しておりますが、同様のモデル。
1:34:42	での荷重ですねこちら側の同様の解析をしており、おるものを用いたいということでこの場合の頭部のに荷重がかかった場合は、
1:34:54	2 ページ目に示しております通り、 9.22×10^{-6} 乗ニュートンの荷重が設計荷重として設定されるとかを設定しております。

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:35:05	一方で、これまで今回の 69 型の評価としましては、津波荷重に関しては、
1:35:12	こちら側の衝突荷重ですねに関しては、 1.97×10^{-6} 乗ニュートンで竜巻荷重に関しましては、こちらが集中荷重となるものが 8.5×10^{-6} 乗。
1:35:27	いうと、
1:35:28	ということで、こういった設計開示のまず比較。
1:35:32	になります。ですからこの設計荷重というのは、これらの竜巻荷重及び津波荷重に対しても保守的な設定となっている条件ということをまず確認いたしました。
1:35:46	では続きまして 4 ページ目に移りますが、はい。その上で各、まず密封シール部の評価におきましては、各津波から津波荷重での評価、竜巻荷重での評価、設計荷重での評価。
1:36:00	今回の参考、参考といいますか、になりますが、この場合、それぞれ発生する応力は、竜巻津波の方がこの条件よりも高いということが確認できますので、
1:36:12	密封シール部に関しては、保守的な荷重設定であるというふうに判断いたしました。
1:36:19	一方、一次蓋ボルトに関しましては、設計荷重のほうが高くなるということで、
1:36:25	さらなる考察をさせていただきました。こちらが同じく 4 ページ目に示している通りです。
1:36:32	この場合には荷重荷重ですね設計荷重と竜巻荷重や津波荷重の設定荷重に対して、その裕度といいますか、荷重比、
1:36:42	を確認いたしまして、その荷重比に関しましては、ちょっと一部他の設計荷重での発生応力を
1:36:52	応力比ということで、減じさせていただきましたところ、この表の 2 に示しております通り、竜巻荷重、
1:37:01	出野及び津波荷重での荷重の場合では、
1:37:06	この荷重比を考慮ということで、この 454MPaを、その荷重比を減じた場合には、竜巻の場合には、
1:37:17	解析結果ですね今回の 49019MPaに対して 416MPa程度になると。
1:37:25	一方で、津波に関しましても、この計算結果 432MPaでの出ておりますに対して、

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:37:32	一部たボルト痕跡荷重で実施した場合でも、97名オカパスカルとなると いうところで、こういった荷重比を考慮しますと、一部たボルトに関しまし ても、
1:37:45	この我々が設定した条件の方が保守的な条件であるということがいえる ということで、こういった確認の結果、
1:37:56	補足説明資料ですと今回ご説明しました、中央部での荷重点の評価の 方が、保守的な結果終えられる。
1:38:07	というふうに考えておりますので、厳しい。
1:38:11	結果となるということで、荷重の設定は妥当であると考えますという、い えると。
1:38:17	いたしました。はい。
1:38:19	なおですね具体的にはご説明しております通り、完全にはヒッピー24型 縦置というところと、Hitz-B69型、横置そして緩衝体つきというところ で、
1:38:33	条件が異なるという点もございますので、
1:38:37	全く同じじゃないというところだけちょっとご留意いただきたいと考えてお ります。はい。ということでは124番に関しましては、我々の荷重設定 が、こういったところから、
1:38:48	検討考察から妥当であるというふうに説明させていただきます。
1:38:55	はい。続きまして27ページ目の126番、除熱の件ですが、これはあれ 説明の中でありました。補正の説明、26%の補正というところを説明さ せて、
1:39:07	いただきました。これは長期健全性のところでの説明になりますが、こち らは、最終的な補足説明資料16-4、
1:39:16	この
1:39:17	具体的にはですね、
1:39:20	こちらは別紙の表になりますが、別紙、1-5の表に、
1:39:26	除熱解析の補正ということで、表をまとめさせていただいております。こ ちらの中に、この説明を注記として、説明させていただきました。はい。
1:39:37	ということで回答とさせていただきます。はい。
1:39:41	もう1点ございますがこちらちょっと説明者変わります。
1:40:00	はい。日立造船濱田です。すいません。ちょっと戻って、
1:40:05	コメントナンバーが85なんですけども、
1:40:10	職務レジームの要素試験についてレジの
1:40:14	熱膨張に関する試験の結果を出していただくこと。

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。
発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:40:20	できますかというちょっと質問がありましてで、
1:40:23	それはちょっとこれ該当日。
1:40:25	本日してたんですけど、
1:40:27	ちょっと、
1:40:29	まだ仕様そのものが間に合ってなくてですね。
1:40:32	申し訳ないんですけども追ってメールで、
1:40:35	送付させていただけないでしょうか。
1:40:41	これまだ資料作成中ってということですか。
1:40:44	今、ちょっとここコメントで修正をしているところです。
1:40:51	わかりました。
1:40:52	また資料の方は、でき次第送っていただいて、内容、内容についてはまた別途、
1:40:59	冷やか。
1:41:00	いやで確認したいと。
1:41:02	思いますけども。
1:41:04	あと、今日の今説明していただいた内容も、
1:41:09	これまだちゃんと資料の内容について、まだ確認はこちらもできてませんので、これから内容確認して、
1:41:17	適宜必要に応じて、また冷やで確認したいと思います。ちなみに今の説明があったこの内容については補足説明資料にも書かれている内容ですか。
1:41:31	はい。日立造船の岡田です。こちらはですねあくまでも議論の中での確認事項という認識ですので補足説明資料には特にはこれは現在は反映しておりません。
1:41:47	そこはちょっとこちらでもちょっと内容を見させていただいて、ちょっと必要に応じて、ちょっと補足説明資料のほうの記載も追記もお願いすることもあるかと思しますので、
1:41:58	またそこはまた別途、
1:42:01	連絡いたします。
1:42:03	承知いたしました。はい。非常に必要に応じては、補足説明資料のフォローをさせていただきます。ありがとうございます。
1:42:16	は、安全、
1:42:22	トレイ、15番、
1:42:28	議事録だとか、
1:42:32	一条の材質がステンレス系っていうのは、多分その必須のシリーズと、

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:42:39	そうしてたようだよ。
1:42:41	記憶違いだったら、違う。
1:42:48	多分そのPの方だったとか、ちょうど施設の方であったか忘れましてけども、
1:42:53	今回これステンレスを使って、その前に別のやつが観測を使ったっていうのは何か、設計の考え方で何か、それぞれ採用した理由ってあるんですか。
1:43:13	日立須藤さん、大井です。
1:43:18	貯蔵施設の方のHitz-B52は、一次部隊1、鮮烈交際をしてて、
1:43:26	今回の負債、
1:43:28	材料と同じで、これは前もちょっとご説明したかと思うんですけども、1ウタ水中取り扱い。
1:43:36	がメインになってくるということで、貫通孔等の構成処理を考えて、
1:43:43	あと一部垂れジンノ。
1:43:46	ピンクバーなんかの溶接の問題もあるんで、
1:43:50	コストも考えてステンレス鋼材をしたと。
1:43:54	P24の方は、単胴と同じ
1:44:00	てご申告。
1:44:02	押さえをしてる。
1:44:06	してますんで、そちらと、
1:44:08	比較するとちょっと違うっていうご指摘だと思うんですけど。
1:44:12	ちょっと基本設計のスタートがちょっと違いまして、これは材料選定が違ってるんですが、
1:44:20	でしたら、どちらでもいいかなというふうに考えております以上です。
1:44:30	それぞれ5セキの考え方ですから、
1:44:34	出す話なんですけども、やはり同じシリーズで、ちょっと値違うところがあるんで、ちょっと、
1:44:42	ヨシダというところで、すいません、起きちゃったかもしれない
1:44:48	再度、
1:44:49	確認みたいな、当社ではありませんでした。
1:44:52	でね、
1:44:55	こっちがあんまり読んでなくて申し訳ないんですけども、
1:45:01	2番目の指摘に対する
1:45:06	やつは今日
1:45:10	要はそういう漂流物とか、飛来物が、

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。
発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:45:14	要はその通り、パンフレット、
1:45:17	オカべる評価ということ。
1:45:20	でしたよね。
1:45:22	確認ですけど。
1:45:25	はい。日立造船の方では、横木の方は早野中条の沖では当たるという、はい。あります形で、えっとですね。
1:45:38	よく、よく安く、
1:45:43	なぜどうだったらにあたる法律がね、良くなるって。
1:45:52	輿石で、
1:45:55	キャスク自身が、キャスク自身が管理みたいな形で、
1:46:00	どうですかね、集中多重。
1:46:06	その重点みたいところで、集中対応を受けるような形の方が、その薬局長的に土地のコウアノモリがショートするよりも高くなると。
1:46:16	今回、イマイ地区、
1:46:18	よくわかんないんですけど、
1:46:21	計算したらそうなったってということなんでしょうか。
1:46:26	じゃあ日立造船のこれそうですね横尾キーは今お話あったように塗料アノトラニオン指示で、なんつうか、やはりですね張りでハセガワにアノた応力がどうしても出てしまう。
1:46:40	藤ハシバにも応力が出ると、ということかなと思っております。
1:46:48	一部、
1:46:50	例えば、そのシール部のところと、傾向にあるわけですね。
1:46:59	方向がね、多分これ刑法系
1:47:05	だから、
1:47:07	経営報告ですよ形多くの方で、
1:47:11	一部アイボルトって多分、
1:47:15	よくわからないけど、こちらの方っていうか、
1:47:24	のとき、同じような条件でフランジのところにし、
1:47:29	反力みたいな形でわかるような形ですよ。
1:47:34	うちの直接会場が入って狂うわけだし、
1:47:43	仮の場合に、要は全体の感じとしては、
1:47:47	するところであればね、何かわかるよ、それでも何かちよっとよくわかんないんだけど、
1:47:55	自体、これ、ヒアリングやるっていうことで、次回のヒアリングがあるのであれば、

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:48:02	どう、
1:48:03	なぜこのような傾向が出るかってちょっと教えてもらえますか、ちょっとなかなか。
1:48:10	パッと考えただけで、
1:48:13	例えばこういうことは、設計監修、他のやつは、センターの選択というか、CHASTEの側部中央に歌手当たると、こちらも厳しいというふうな事態が出るというところの、
1:48:27	どうですかね物理的な妥当性っておかしいけども、
1:48:33	家族に流れるからですとかというふうなところで、その辺がちょっと考察をちょっと教えていただきたいと思います。
1:48:43	評価としてね、結果として多分全然問題ないレベルだと思うので、そこはあんまり
1:48:53	疑うところはないんですけれども、やはり、
1:48:58	直感的な、ちょっとパッと見てねやっぱりモデルにおいてこれよりも、土当たれるこっちがきついのかとかっていうふうな感じになる。
1:49:06	見えてくるので、その辺がどうだっていうことを、ちょっと教えていただければと思います。以上です。
1:49:15	はい。日立造船のお話ありがとうございますはい。検討させていただきます。なおですね昇等ミイだけに着目しますと、当然初期締付応力初期締付力の影響も大きいと思いますので、
1:49:27	その辺もちょっと確認していこうかなとちょっと思いました。ですから、その影響が大きい場合は、やはりその影響でほとんど変わらないというような説明にもなるかなと思います。はい。
1:49:38	はい、わかりました。はい。ありがとうございます。
1:49:44	規制庁マツノです。
1:49:46	このコメント管理表で今白抜きの部分のところの説明があったかと思うんですけど、
1:49:54	例えばNo.15 のその回答方針見ても、
1:49:58	何かこちらからのコメントに対して、
1:50:02	ちゃんと明確に、
1:50:05	回答されてないのかなと思うんですけど。
1:50:08	こちらは熱膨張の影響の有無について説明することで、その影響があるかないかというところはまずそこは回答方針としてまず書くべきだろうと思うんですけど。
1:50:19	ちょっと仮回答方針というところを、ちょっとこちらのコメントに対して、

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:50:25	明確に該当するのとなでなぜそれから、そういう、
1:50:29	影響がないことが確認できたのかとその理由と根拠というところはまたポイントっていう内容をやっぱりこの回答方針の欄に、ちょっと明確に、
1:50:39	ちょっと書いてもらえますか。
1:50:41	あと、今日のあった資料 1-2 はそこはちゃんとこの回答方針のところにちょっと、
1:50:46	ひもづけして、
1:50:50	もらえますか。
1:50:53	はい。まずは1点目の後日コメントの件ですがはいまずアノコウアノ熱膨張影響呉というはありませんといったような明確な説明した上で、2の説明といったことでしたありがとうございます。
1:51:07	で、またこの資料に、今回準備した資料を、こちらの回答欄に紐付けさせていただきます。はい、ありがとうございました。
1:51:17	その他何か質問、確認したい点がありましたらお願いします。
1:51:28	日立造船か何か全体通して確認し、
1:51:33	点があれば、
1:51:41	はい。はい各ヒアリングとかは特にございません。ありがとう。はい、ありがとうございます。
1:51:48	はい。規制庁松野です。ちょっと本日通冷やでコメントした点についてはまた別途、回答資料を用意していただいて、
1:51:58	準備ができ次第またヒアリングで確認したいと思いますのでよろしく願います。では本日のヒアリングはこれで終了します。
1:52:10	ありがとうございました。

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。